

平成20年度 学校評価表 (中間 **最終**)

呉市立(吉浦中)学校

<p>a 学校教育目標</p>	<p>確かな学力を身につけ、心豊かで活気に満ちた生徒の育成 ～9年間を通じた豊かな心の育成をめざして～</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p>	<p>(自校の使命) 将来に夢や希望を持ち、自己実現をめざす学力を備えた生徒を育成する。 (自校の将来像) 小学校と連携し、地域や保護者に信頼され、安心して生き生きと生活できる学校</p>
-----------------	---	------------------------------	--

評価計画					自己評価					改善方策		
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成	2月 h 達成	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析		m コメント	n 改善方策
確かな学力の育成	わかる授業の創造	○授業研究の推進	生徒の授業満足度を60%以上にする。	生徒の授業満足度(アンケート)	60%	83.9%	90.2%	150%	A	授業満足度「授業に意欲的に取り組んでいるか?」という項目についての回答からの数値である。他にも「先生は教え方をいろいろ工夫しているか?」という設問を全教科について実施したが、この回答についても80%を下回る教科はなかった。教職員の研修などの成果と考えられる。 家庭学習—中間よりも数値は上昇した、とはいえやはり非常に低い状態にある。生徒たちの生活ノートに「塾の自習室で学習した」という記述がよくある。「家では集中できないから」ということらしいが、これは実質的には家庭学習と考えてもいいかもしれない。いずれにしても家庭学習の仕方などをよりよいに指導する必要がある。	家庭学習は基本的な習慣として定着させてほしい。保護者にもしっかり認識させてほしい。 ○家庭学習の定着にかかわっては次の点を重点的に取り組んでいく。 ①計画的な家庭学習の進め方を学級担任が指導していくと同時に、各教科担任も家庭学習の仕方について指導していく。②生活ノートにきちんと家庭学習の時間や内容を記録させそれをこまめに確認しながら指導していく。③保護者との連携をより細かくとっていく。④家庭学習の進め方や宿題の出し方など小学校とも連携していく。(9年間を見通した指導)	○よりよい授業の創造を目指して来年度も授業研究に積極的に取り組んでいく。 ○家庭学習の定着にかかわっては次の点を重点的に取り組んでいく。 ①計画的な家庭学習の進め方を学級担任が指導していくと同時に、各教科担任も家庭学習の仕方について指導していく。②生活ノートにきちんと家庭学習の時間や内容を記録させそれをこまめに確認しながら指導していく。③保護者との連携をより細かくとっていく。④家庭学習の進め方や宿題の出し方など小学校とも連携していく。(9年間を見通した指導)
		○学習習慣の定着	家庭学習を1日1時間以上学習する生徒を70%以上にする。	生徒の家庭学習の時間(アンケート)	70%	39.7%	47.3%	68%	C			
豊かな感性と道徳性の育成	豊かな心をもった生徒の育成	○規範意識の育成	道徳の時間で学んだことを生活にいかしていると思う生徒を80%以上にする。	生徒の道徳学習について(アンケート)	80%	68.6%	66.5%	83%	B	道徳教育—道徳の時間については「楽しい」「ためになる」という受け止めをしている生徒が80%を超えている。それらを日々の生活に結び付けていけるような指導の在り方について、小中9年間を見通した系統的な指導方法を工夫したり地域保護者との連携のさらなる充実させるなどしながら、取組みを前進させていく必要がある。 あいさつ—全体的には大きな声であいさつができる生徒が多いが「①できる生徒とできない生徒がはっきりしている。②学校外であいさつができない。③授業前後のあいさつが小さい」といった課題がある。形だけでなく場面に応じた気持ちのこもったあいさつができるよう指導を継続していく。	道徳教育が普段の生活面と結びついていない面があるのは課題である。保護者の「心」も豊かにすることも考える必要がある。 「豊かな心」とは何をさしているのかしっかりと考える必要がある。 地域のおとなの目で子どもに教える必要がある。「感謝」のころをしっかりと教える必要がある。	○小中一貫教育の研究推進の大きな柱の1つに「道徳教育」を位置づけることで、9年間を見通したより系統的な道徳教育を推進していく。また保護者・地域のより積極的な協力も得ることができるよう取り組み内容を積極的に保護者・地域にも発信していく。 ○あいさつについてはこれまでと同じように積極的に教職員からもあいさつをしていく。またこれについても保護者・地域との連携・協力をこれまで以上に大切にしていきたい。
		○豊かな心をもった生徒の育成	気持ちよく挨拶ができたと思う生徒を80%以上にする。	生徒の生活実態(アンケート)	80%	91.2%	87.9%	110%	A			
健やかな体の育成	たくましい体力の育成と健康の維持増進	○部活動の充実	部活動に対する満足度を80%以上にする。	生徒の生活実態(アンケート)	80%	76.8%	75.8%	95%	B	部活動—朝練習・放課後練習など生徒たちは意欲的に活動をしている。しかしながら顧問が部活動に出て指導する時間が少ない現状がある。確かに忙しい中時間をつくるのが大変な面はあるが、部活動での意欲的な活動を学校生活の様々な場面でプラスにつなげていくためにも次年度に向けての課題として受けとめたい。 生活習慣—吉浦小学校出身の生徒たちが小学校時代に食育を通して身につけてきたことが継続して生徒たちの中に生きている。また今年度から小中一貫教育の1つの柱として「食育」を中学校でも積極的に取り組み始めた。小学校との連携の中で今後もより充実させていきたい。	教職員が多忙になり、教材研究や子どもと接する時間が少なくなっているのが心配である。 校外での生徒の「あいさつ」は羞恥心などがあるので自分から声を出しにくい状況であるが、地元の人や防犯パトロールをしている人には、自分から進んで声を出してほしい。	○部活指導については来年度のスタート段階で、会議等がない日は少なくとも4:50までは部活顧問が最低1人はつくこと、また会議がある場合も部活の開始は必ず顧問の指導のもとに行うことなどを職員間で確認し取組みをすすめていく。 ○生活習慣については小中一貫教育の研究推進のもう1つの大きな柱に「食育」を位置づけることで、9年間を見通したより系統的な食育を推進し生徒たちの生活習慣の改善を図っていく。
		○生活習慣の確立	早寝、早起き、朝ご飯を実行できる生徒を80%以上にする。	生徒の生活実態(アンケート)	80%	91.2%	92.1%	115%	A			
信頼される学校	開かれた学校づくりをめざし、地域に根ざした教育の推進	○学校評価を生かした学校力の向上	地域・保護者の学校に対する満足度を70%以上にする。	地域・保護者学校評価(アンケート)	70%	未実施	74%	106%	A	学校への満足度—目標数値に対しての達成度は100%を超えているが、満足できていない26%の保護者の思いを学校が正面から受けとめて日々の実践につなげていくことが大切である。そのためにも日ごろからの学校と保護者の連携を密にしていけることが重要である。ホームページの更新、また学級通信・学年通信の発行など、様々な形で地域に向けて情報を発信することができている。	保護者の学校満足度を上げるように引き続き、努力をお願いします。	○HPや学級通信等による情報発信を今後も積極的に行っていく。 ○生徒に関わる様々な問題や課題について、家庭との連携をきちんととりながら取組みを進めていく。
		○保護者や地域への積極的な情報公開	学校便り、学級通信の発行、ホームページの更新を月1回以上行う。	発行回数、更新回数	12回以上	12回	30回	250%	A			
その他	小中一貫教育の推進	◎小中一貫教育指導計画の作成及び実施	小中合同研修会を学期に1回以上実施する。	実施回数	3回以上	2回	3回	100%	A	小中一貫教育—「食育」と「道徳教育」を2つの大きな柱に位置付けて取組みを進めている。どちらも子どもたちの「心」と「体」の健やかな成長を保障していく上での基盤となる営みである。今年度は互いの実践を交流することに加え、小学校と中学校の教員がお互いに乗り入れて授業を実施するなどより充実した実践とすることができた。来年度に向けて9年間でより系統的な指導実践ができるよう研修を積み重ねていきたい。	3校での連携した取り組みによって、子どもたちに「いい変化」を感じている。 道徳以外の教科の取り組みはどうなっているのか。	○小中一貫教育の研究指定も2年目をむかえる。11月には公開研究会を本校で実施する。それにむけてすでに小中が連携して来年度の計画を立案している。小中合同での授業研や「道徳教育」「食育」の系統的なカリキュラムの作成など具体的な実践を積み重ねていく。

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j: 自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成)

B: 80≦(ほぼ達成) < 100 C: 60≦(もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

【l: 学校関係者評価 評価】

イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: 分からない。